

# Hairo Michi

はいろみち 第11号

P1-2

## 若手社員紹介「ミライ×Michi」

—先輩社員の思いと技術を受け継ぎ 明日へとつなぐ—



P3 第11回「あの日から」

P4 自分も、仲間も守る。危険予知能力の向上を。  
「危険体感訓練」

P5 「東京電力廃炉資料館」開館のお知らせ

P6 ふるさと探索 ～大熊食堂のご紹介～





# ミライ× Michi VOL.1

## 先輩社員の思いと技術を受け継ぎ 明日へとつなぐ

福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所  
環境化学部 固体廃棄物管理グループ

たご ひろ たか  
田児 啓貴



震災後に入社し、今後を担っていく世代の社員たち。彼らが入社の動機や現在の仕事、これからやってみたいことなど、仕事に対する思いを語ります。第1回は、固体廃棄物管理の仕事に携わっている、入社2年目の田児啓貴さんです。

### —東日本大震災が起きた時はどうしていましたか。

当時私は高校3年生で、神奈川県にいました。大学入試の合格発表があり、その報告をするために高校に行ったときに地震に遭いました。神奈川県でもそれまで体験したことのない、大きな揺れでした。

進学したのは仙台の大学でしたが、震災の影響で入学式が1カ月延期されました。入学当時は図書館などの建物に地震の被害が残っており、やはり大規模な地震だったのだと感じたことを覚えています。また、大学のボランティア活動で、沿岸部に出かけたことも何度もありました。

### —大学ではどんなことを学びましたか。

工学部に所属し、研究室では原子力事業で発生する廃棄物の処理に関する研究を行っていました。講義では、東京電力や関連企業の社員の方から、廃炉の現況や長期計画などについて学ぶ機会もありました。大学に入った時は原子力や廃棄物について特に学びたいと思っていただけではありませんでしたが、研究室で学んでいくうちに少しずつ興味が深まってきました。

### —入社を決めた経緯について教えてください。

大学の講義で福島第一原子力発電所の廃炉の状況やこれからの課題などについて聴いていくうちに、自分も携わってみたいと考えるようになりました。技術的にも挑戦することの多い分野ではないかと感じたのが、その理由です。インターンシップに参加し、初めて福島第一原子力発電所を訪れたのは平成27年のことだったと思います。事故直後のイメージが頭にあったので、「想像していたよりも整備されているな」と思ったのが第一印象でした。

### —現在はどんな仕事をしていますか。

平成29年に入社し、半年間の新入社員研修を経て、希望した福島第一原子力発電所に配属になりました。現在は固体廃棄物管理グループに所属し、廃炉作業で発生する固体の廃棄物を構内で保管する仕事を行っています。金属やコンクリート、油を拭き取った紙など、廃棄物は多岐にわたっています。それを汚染の状態によって分類したり不燃物、可燃物などに分別して、敷地内で安定的に保管する仕事です。これは、限られた構内の一時



## ■ 固体廃棄物管理グループで行っている業務

### — 廃棄物の計画的な貯蔵のために —

- ・震災後に発生した瓦礫などの一時保管管理
- ・放射性固体廃棄物貯蔵管理
- ・産業廃棄物の管理 など

## ■ 固体廃棄物管理グループでの田児さん

現場で働くことにやりがいを感じるという田児さんは、入社2年めでありながらグループの中心的な役割を担っています。

今回の取材の中で、定期的な構内パトロールに同行させていただきましたが、その姿はとても頼りがいのあるものでした。



保管エリアの中でどのように保管・運用していくかを検討する必要があります。したがって、発電所構内に持ち込む物を最小限にすることや、可能な範囲で資機材の再使用や再利用を進め、廃棄物を発生させない取組みを進めていくことが重要となります。

学生の時に受けた講義で構内の廃棄物を外に出せないことは知っていましたが、こんなに細かく分別し、いろいろな方法で保管していることは入社して初めて知りました。最初の1年はとにかく教えてもらうことばかりで、それを一つひとつ習得していくことに必死でした。

### —働きながら感じていることは？

研修を受けただけではよくわからなかったことを、実際に現場で学んでいけることにやりがいを感じています。福島第一原子力発電所は通常のプラントとは状況が違うので、通常では発生しないような廃棄物が出たり、設備や現場の状態も異なったりしています。それはやはり、廃炉作業を進めている福島第一原子力発電所ならではの仕事なのだ実感しています。

今のところ、大学での研究が直接的に役立っているということはありません。しかし、大学で学んだ放射線の知識がベースにあり、どうすれば被ばくを防げるかなどについてもわかるため、放射性物質に対する抵抗は感じません。そしてそのことは、仕事をする上で役に立っていると思います。

### —これからの課題や目標について教えてください。

福島第一原子力発電所では、今後廃炉作業が長期にわたって行われていきますが、最終的に課題として残るのは、廃棄物の問題だと思います。私は最初に配属されたのが固体廃棄物管理グループなので、この課題の解決に少しでも役立ちたいと考えています。そのためにも、私自身が早く一人前になり、仕事ができるようになることが目標です。

事故をきっかけに、現場の対応方法や仕事のやり方が変わった点も多いと思います。私は、震災当時を知っている先輩方から緊急時の対応や安全対策に必要なことなどをできる限り多く吸収し、業務に生かしていきたいと考えています。そして先輩方の思いを、私もまた次の世代の人たちに伝えていきたいと思っています。



## あの日から

ライフラインの確保に奔走し  
免震重要棟の機能を維持した日々

—建物の保全業務を通して廃炉作業の  
下支えの役目を担う—



福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所  
建築部 建築保全・総括グループ チームリーダー

山下 誠  
やま した まこと

私が入社したのは昭和58年で、神奈川支店や茨城支店などで、営業所や変電所の保全業務を主に担当していました。福島第一原子力発電所には平成18年に赴任し、全号機を対象に事務本館も含めた建物の保全の仕事に携わっていました。

デスクワークをしていたときに東日本大震災の地震が発生し、1週間前に行った避難訓練の手順に則って屋外に避難しました。その後免震重要棟に入り、それ以降は、建築グループとして、免震棟の機能を維持することが業務となりました。その内容は、具体的にはライフラインの確保です。停電により給排水がストップしていたため、構内に仮設で露出配管を施して、水を供給できるようにしました。配管の距離は4、5キロはあったと思います。この時は全面マスクでの作業だったため、思うように動けません。作業に従事された方には頭が下がる思いでした。水が通ったときには、「これで役に立てた」という気持ちになったことを覚えています。

また、免震棟に人が集中していたことから、汚水処理も含めて喫緊の課題が多く、その対応に追われました。設計図を広げるにも一人ひとりの机はないので空いた机を使い、時には床で作業をすることもありました。パソコンも1台を10人で使うような状況でした。このような中で、私たちのグループは4勤3休というシフトを作り、免震棟の機能維持のための業務を続けました。資材調達も苦労したことのひとつです。震災から2日目、資材調達のために

発電所からいわき市まで出かけたことがあります。夜だったので、視界の悪い中での走行でした。道路が陥没しているところを避けながら走行したり回り道をしながらようやくたどり着くことができました。

作業員の方が増えてきたことから、休憩所の整備にも携わりました。既存の建物を休憩所とするための改修工事の工程管理と発注業務が私の仕事でした。免震棟もそうでしたが、休憩所も作業員の方にとっては行動の起点となる場所です。このため、非常用照明や火災報知機の設置、空調なども含めて、その保全業務も大切な仕事でした。

その後平成24年2月に茨城総支社に異動となり、平成30年7月には福島第一原子力発電所に戻ってきました。6年半ぶりに見た発電所は、構内の状況がずいぶん変わっていて驚きました。当時は爆発によるがれきが散乱していて、全面マスクで作業を行っていたのですが、その時から比べると作業環境はずいぶん改善されていました。

現在は建築保全を総括する業務に就いており、人材育成も行っています。これからの長い廃炉作業を支えるためにも、建物の機能を維持する保全業務は欠かせない仕事です。震災を体験した一人としては、緊急時のライフライン確保のためのリスク対策が非常に重要であることを痛感しています。そして、その整備を進め、次の世代へと伝えていくことが私の役目であると思っています。



# 危険体感訓練

— 自分も、仲間も守る。  
危険予知力の向上を。 —



## 体験型訓練施設

【訓練場所】福島第一原子力発電所内

福島第一原子力発電所では、2015年3月以降、構内作業を行うすべての社員および作業員の方々を対象として、体験型の訓練を通じ安全対策の重要性を確認することで、災害防止に繋げていくことを目的とした危険体感訓練を行っています。

今回は、東京パワーテクノロジー株式会社、株式会社エイブルおよびシガ環境メンテナンス株式会社の皆さまにご協力いただき、実際の訓練を取材し講師の方にお話を伺いました。

### 危険度、発生頻度が高い作業を抽出し、危険体感訓練を行っています。



落下衝撃力体感訓練

人に見立てた75kgの重りを高所より落下させ、その衝撃を視覚や振動、音で体感します。



安全帯ぶら下がり体感訓練

タイプの異なる安全帯(胴ベルト型、ハーネス型)を装着し、身体にかかる負荷の相違を体感します。



きょうあい  
狭隘部体感訓練

狭隘な環境や機器を模擬し、軽微な接触によってもスイッチが動くことを体感し、声かけなどの基本動作の重要性を確認します。



危険予知訓練

予め安全上の不備が潜んでいる状況を観察し、危険箇所を見つけ出す力を養います。



掘削体感訓練

予め埋設されてある配管や管路に対し、試掘を実施し、その感触を体感します。



災害事例紹介

過去に構内で発生した災害事例を紹介し「同じ事象を繰り返さない」という意識を高めます。

このほかにもさまざまな体感訓練を行っています。

現役の構内作業員  
だからこそ  
伝えたいこと



株式会社エイブル 第一事業本部  
第一工事グループ 安全担当  
なかの しんいちろう  
講師 中野 信一郎さん

危険体感訓練は、福島第一原子力発電所構内で作業を行う多くの方に受講いただいております。初心者の方にも訓練内容を理解してもらうために、現役の構内作業員である自分の経験・体験を交えながら受講者一人ひとりに問いかけを行い進めています。

現場には、転落・転倒などさまざまな危険が潜んでいます。安全意識や危険感受性の欠如によって、安全管理者が危険作業を見過ごしたり、自分や仲間が思わぬ労働災害に遭ってはいけません。

この危険体感訓練を通し、作業上に潜む危険を自分で見て体感してもらうことによって、危険に対する感受性をより高め、災害防止に繋げていただきたいと思います。



# 東京電力廃炉資料館

## 開館のお知らせ

発

電所周辺地域をはじめとした福島県の皆さま、そして国内外の多くの皆さまが、福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状などをご確認いただける場として、「東京電力廃炉資料館」を「旧エネルギー館」に設置し、2018年11月30日に開館いたしました。

原子力事故の経過や廃炉事業の進捗を映像や模型、パネル展示などでわかりやすくお伝えいたします。



### 嶋津館長からのメッセージ

東京電力廃炉資料館館長の嶋津です。

当館の運営にあたりましては、原子力事故の当事者としての真摯な姿勢、来館者の方へのわかりやすいご説明、地元・地域の一員としての視点の3点を常に大切に、忘れることなく、運営スタッフ一同、努力してまいります。

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

### 施設構成

1階

#### ゾーン1 プロローグ

ご来館される皆さまへの社長メッセージです。



2階

#### ゾーン2 記憶と記録・ 反省と教訓

原子力事故を振り返り、事故の反省と教訓をお伝えします。



1階

#### ゾーン3 廃炉現場の姿

廃炉事業の全容と最新の現場の状況をお伝えします。



1・2階

#### 情報スペース

福島復興への取り組み、原子力や放射線等の情報をご覧いただけます。



### 東京電力廃炉資料館

- 所在地／福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央378番地(旧エネルギー館)
- 電話番号／0120-502-957
- 開館時間／9時30分～16時30分
- 休館日／毎月第3日曜日・年末年始
- 入館料／無料(駐車場無料)





おお くま しよく どう  
**大熊食堂**



株式会社鳥藤本店さまが東京電力の社員寮の食堂として2016年9月に営業を開始し、2017年4月に地域の復興に寄与できればと一時帰宅をされている方々や復興作業に従事されている方々にもご利用いただけるようにいたしました。

地元の食材も使用しながら、週替わりの定食や丼、麺類など約24種類ものメニューを揃え、1日平均120食を提供しています。

大熊町大川原地区にある「大熊食堂」。木立に囲まれ、南側一面の窓からは太陽の光が降り注ぐ明るい雰囲気の内は、お食事以外でもゆったりとくつろいでいただけるよう約240席を有し、ランチの時間帯には憩いの場となっています。

ゆっくりおくつろぎいただけるお座敷の席もあります



食事をされている方たちの笑顔にやりがいを感じ、近隣の復興により新しい施設ができてくる期待を胸に、従業員のみなさんが今日もお待ちしています。

お肉たっぷり  
焼肉定食!



どなたにでも食べていただけるようにと、3種類の週替わり定食をご用意しております



大熊食堂

- 営業時間 / 11:30 ~ 14:00
- 休業日 / 土日・祝日
- 住所 / 〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平 911
- 電話番号 / 070-2016-5969 (大熊食堂)



帰り道

大熊食堂を取材させていただいた帰り道、大熊町役場新庁舎建設現場近くに、とても綺麗な花壇を見つけました。ボランティアの方たちで、ざる菊（ドーム菊）を植えたそうです。





## 📷 今回の表紙



危険体感訓練にて行われる『落下衝撃力体感訓練』の様子です。  
人に見立てた75kgの重りを高所より落下させ、その衝撃を間近で体感します。

## お知らせ

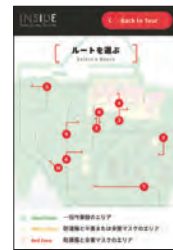
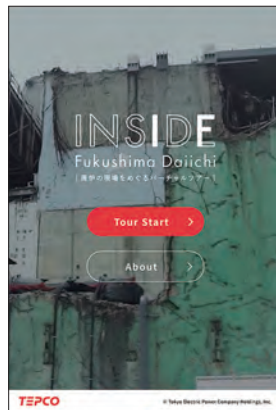
### 「INSIDE FUKUSHIMA DAIICHI ～廃炉の現場をめぐるバーチャルツアー～」の 日本語スマートフォン版の公開について

当社は「廃炉の現場の今」をお伝えするWEBコンテンツ「INSIDE FUKUSHIMA DAIICHI～廃炉の現場をめぐるバーチャルツアー～」を公開しております。

廃炉作業の進捗状況を、発電所構内を実際に視察しているかのような臨場感で疑似的に体験いただくことができます。

また、施設の一部を360度映像でご覧いただけるとともに、各現場や設備のご質問にもお答えしています。

当社は今後も、デジタルコンテンツなどを活用した情報公開を積極的に行い、廃炉作業の進捗をわかりやすくお伝えしてまいります。



**INSIDE FUKUSHIMA DAIICHI**  
～廃炉の現場をめぐるバーチャルツアー～  
◀日本語スマートフォン版  
[www.tepco.co.jp/sp/insidefukushimadaichi/index-j.html](http://www.tepco.co.jp/sp/insidefukushimadaichi/index-j.html)

### 「廃炉プロジェクト」ホームページURL

<http://www.tepco.co.jp/decommission/index-j.html>



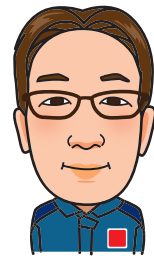
### － 編集後記 －

平成最後の年末となりました。  
平成生まれの若い社員も増え、それぞれが日々課題と向き合いながらも一歩ずつ前に進んでいます。

昭和最後の年を福島で中学3年生として迎えた私も、今は中学3年生の子を持つ父親になりました。

単身赴任生活のため、子供の成長を日々間近で見ることができませんが、おそらく毎日一緒に生活しては気づかないような、ちょっとした成長を週末に感じるのが楽しみの一つになっています。

来年も「はいろみち」をどうぞよろしくお願いたします。



(久)

Hairo Michi  
はいろみち

本誌の名前「はいろみち」には、「はいろ(廃炉)へのみちのり」にあたり「はいろ(廃炉)というみち(未知)なるものへの挑戦」を「みなさまのちからをいただきながら」成し遂げていく、といった意味を込めています。  
ロゴのMIは手を取り合って協力している「人」を表現しています。



この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。

福島第一原子力発電所 廃炉情報誌 はいろみち  
第11号 2018年12月10日発行

編集発行  
責任者  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
廃炉コミュニケーションセンター  
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22  
TEL (0240) 30-9301 (受付時間/平日午前9時～午後4時)



公式フェイスブック  
[facebook.com/officialTEPCO](https://www.facebook.com/officialTEPCO)



公式ツイッター  
@TEPCO\_Nuclear

